伝説、民話ウオッチング

●蛇塚

鞍掛山を越え、宮田町と滑川町の接する山林の中に蛇塚があり、梵字一字の下に蛇供養之墓と刻まれた石碑がある。

むかし、この辺りに大蛇が住み、村人達に危害を加えたので、宮田の武人、水庭若狭守が大弓で蛇を射止めた。村人達は祟りを恐れ、石碑を立て供養したという。

●平内屋敷跡

蛇塚の近くに清らかな水の流れる一筋の小川がある。昔はこのあたりに池があり、その下方に平内屋敷という所があったという。村人達に伝わる話では、平家落人の姫と家来達の住み家だったとか、蛇塚の蛇（実際は人間か？）と関係があったとか言われている。

●大男の足跡

むかし昔、大きな男が海よりあがってきて、左足を仲居（東滑川町２丁目）に、右足をソバナゴの畑に開いて小用をしたんだとさ。その小用の跡が平内屋敷だそうだ。

●滑川の八幡清水

清水地区内には自然に湧き出ている井戸が２か所ある。昔、八幡太郎義家が奥州征伐の途中、兵士の咽喉をうるおすため、矢を地面に突き刺したら湧き出したという。（これは、助川の八幡清水と同じような伝説である。）

●十兵衛むじな

昔、腹に十文字の模様のある十兵衛むじながいた。ある夜、線路上でお月様に化けたら、驚いて汽車が止まってしまったそうだ。

滑川八景ウオッチング

八景の起源は中国の瀟湘八景で日本では近江八景や金沢八景、水戸八景等が名高く、水戸以北にも32の八景がある。滑川八景は江戸末期につくられたといわれ、典型八景といって詩句、地形、景色等の一定のパターンに即して、場所を選定し、詩歌を詠んだものである。

＊北釜の夕照（滑川浜の一角）

北釜に　汐くむ海女の　かげ消えて　松の梢に　残る夕映え

＊田島の秋月（滑川浜通り・田島）

うき雲のはれてうれしく見ゆるかな　田島の里の秋の夜の月

＊小幡の落雁（高鈴が見える小幡）

友よぼう声高鈴の峰越えて
小幡の田面かりおちるなり

＊烏ヶ沢の夜雨（烏ヶ沢の低地）

賤ヶ家の灯りほぐらき烏沢
いとしずかなる夜の雨かな

＊館跡の晴嵐（館跡）

館跡の松の嵐の音たえて
晴るる海路を唐船のゆく
（晴嵐…青葉の頃のやや強い風）

＊六所の暮雪（塩釜神社付近）

山の端に夕ぐれそめてふる雪に
六所の木々は六の花さく

＊海雲山の晩鐘（海雲山観音院）

花おしむ人の家路をいそぐかな
海雲山の夕ぐれのかね

＊清水の帰帆（清水浜）

真帆白く海は碧に夕映えて
すめる清水にかえるつりふね

街路樹と巨樹ウオッチング

●滑川丘通りの街路樹

2.08kmのアメリカ楓の街路樹347本。(守る会が知事賞等を受賞)

●蔵前のシイの巨樹

樹齢約350年、幹廻り（目通り）約4.1m。

●稲荷神社のシイの巨樹

樹齢約150年、幹廻り約2.5m。

●天王様のシイ・サクラの巨樹

樹齢約300年、幹廻り約3.2m。

●荒屋の桜（団地北側の墓地内）

樹齢約300年、幹廻り約3.9m。

マップ発刊にあたって

住むまちを学び舎とする学習は、新たな人の生き方、新しいまちづくり、そして住民相互の連帯をめざすものです。このマップは、その学習のための一つの教材です。

滑川地区のあゆみと略年表

原始時代 ◎縄文早期の遺跡から古墳後期の遺跡が、海岸段丘上に点在する。

- 紀元前数千年前より以降……滑川一里塚、金木場、向畑、曲松、モガキ平、蔵前、舞台ケロ内、寺台、滑川浜館跡、明神越などの遺跡
- 紀元４世紀～７世紀頃…滑川浜古墳、滑川浜横穴群、滑川町大田尻横穴群

奈良時代 ◎律令制のもと、滑川は道前里（みちのくちのさと：滑川、田尻、小木津あたり）に属し、金木場にはそのころの遺物から、里長が住み役所があったと推察される。

- 690年前後(持統朝朱鳥)……この頃、仏が浜に観世音菩薩が彫られたといわれている。
- 713年（和銅６年）……常陸国風土記が編さんされ、仏ケ浜等の記事が見られる。
- ８世紀～９世紀頃……金木場、向畑遺跡には数多い住居跡（一部調査で90戸）があり、墨書土器や青銅器帯金具、焼印等の遺物が出土。

平安時代 ◎律令制が衰退し、武士が興起する。常陸国北部は奥七郡と称し、佐竹氏の支配地で、滑川は佐都東郡助川郷（成沢、相賀、助川、宮田、滑川）に属していた。

- 812年(弘仁３年)頃…この頃、弘法大師が度志観音に立ち寄り、寺を建立したといわれる。(伝説)
- 1177年～1181年頃（治承１～５年頃）……この頃、田尻の小島に住む栄蔵という修行僧を西行法師が尋ねてきて、歌を詠んだという。(伝説)

鎌倉時代 ◎佐竹氏は源頼朝に攻められて奥七郡を没収され、一時は宇佐美氏ほか、地頭等が支配したときもあったが、佐竹氏は幕府の御家人となり失地の回復に努めた。

南北朝～室町～戦国時代 ◎佐竹氏は、南北朝争乱で足利尊氏に忠勤を尽し、再び奥七郡を支配した。佐竹氏の重臣、小野崎氏が十王、友部に築城したほか、その一族が、北部の要地に城砦を築いて勢力を張り、滑川にも館が築かれた。

- 1470年(文明２年)…南楯寿星が度志観音に参籠の後、天童山大雄院を開基する。
- 1490年(延徳２年)頃…小野崎直通が、滑川の地に館をつくり居住する。
- 1545年(天文14年)頃…小野崎直通が、滑川から相賀館に移る。滑川の館には、石神の同族、小野崎左衛門が入る。
- 1575年(天正３年)…小野崎氏の請により、大雄院九世吉山元利禅師が滑川観音院を開基する。
- 1585年(天正13年)…塩釜神社が陸奥国の塩釜神社より分霊して遷座される。
- 1585年(天正13年)…岩城親隆が南進し、滑川の館も敗れたという。(異説あり)

織豊時代 ◎秀吉が天下を統一し、佐竹氏が常陸国を統一する。検地が行われ、地方制度は国、郡、村制となり、日立地方のほとんどは多珂郡に属した。

江戸時代 ◎佐竹氏は秋田に移封され、徳川御三家の一つ、水戸藩の支配地になる。滑川村が誕生し、村は行政の末端単位として、庄屋などの村役人を置き村政に当らせた。

- 1639年(寛永16年)…滑川村が田尻村より分村し誕生する。
- 1641年(寛永18年)…寛永の検地実施さる。滑川村立会人に滑川信助、大和田佐十、他３名が当る。
- 17世紀後半頃……この頃、滝作の溜がつくられたものと推察される。
- 1838(天保９年)頃…この頃、滑川の浜で製塩が盛んに行われるようになる。
- 1844年(弘化１年)…滑川村の六郎左衛門が砂鉄製鉄を願い出る。
- 1864年(元治１年)…助川城落城。山野辺義芸夫人、一時観音院に身を隠す。

明治・大正時代 ◎憲法が制定され、市制、町村制が施行される。滑川村と宮田村が合併して日立村が誕生し、さらに大正末期には日立町へと発展する。

- 1873年(明治６年)…石井磊三氏、観音院に学校を開き、まもなく校舎を蔵前に移す。翌年、名称を滑川小学校とし、地名を用いる。
- 1889年(明治22年)…滑川村と宮田村が合併して日立村となる。(日立の地名のはじまり)合併で、旧滑川小学校は日立尋常小学校となる。
- 1890年(明治23年)…蔵前の日立尋常小学校が火災により焼失する。
- 1897年(明治30年)…宮田の地に新校舎が落成する。(宮田小学校)
- 1913年(大正２年)…区悪強盗により観音院住職が殺され、寺は放火される。
- 1924年(大正13年)…町制が施かれ、日立村は日立町となる。

昭和・平成時代 ◎第二次世界大戦後の産業、経済の発展で、滑川地区も急変ぼうする。

- 1939年(昭和14年)…日立町と助川町が合併して日立市となる。
- 1955年(昭和30年)…町村合併により、新日立市に発展する。
- 1965年(昭和40年)…国道６号バイパスができ、滑川各地の開発がすすむ。
- 1973年(昭和48年)…滑川小学校が宮田小学校から分離して開校する。
- 1974年(昭和49年)…滑川地区市民運動実践会が結成される。
- 1981年(昭和56年)…滑川中学校が創立開校する。
- 1988年(昭和63年)…日立市滑川公民館が竣工し、開館する。

滑川ウオッチング

ひたちコミュニティマップ

発行　滑川地区市民運動実践会
1992年３月

史跡・景勝地ウォッチング

●豊川稲荷神社

祭神は神通力をもつ神、茶枳尼天と百穀の神、倉稲魂神である。

神社創建はいろいろな説があるが、曹洞宗寺院記録によると、享保20年（1735年）大雄院の茶枳尼天尊を滑川観音院に移したとある。

明治6年この地、蔵前に滑川小学校が創立。同23年火災で焼失した。

●塩釜神社

旧村社。昔は六所明神といわれていたが、明治6年塩釜神社と改められた。主祭神は塩土翁伎命で、その他、大田命など五柱の神々も祭られている。創立は天正13年、友部山の尾城（十王町）の家士らが陸奥国（宮城県）の塩釜神社の神を分霊して遷座した。この他境内には、北野神社等六つの祠も祭られている。

●天王様（素鵞神社）と巨樹

祭神はスサノオノミコトである。しかし、天王様とは、祇園精舎の守護神、牛頭天王のことである。スサノオノミコトが天王様と呼称される理由は、両神の荒神的性格が習合したからであろう。旧暦6月15日が祭で、荒みこしが出てにぎわった。巨樹シイの木は樹齢約300年になる。

●滑川丘の六地蔵

六地蔵とは、六道に迷い、苦しむ人々を救う仏である。地獄道に檀陀地蔵、餓鬼道に宝珠地蔵、畜生道に宝印地蔵、修羅道に持地地蔵、人間道に除蓋障地蔵、天上道に日光地蔵の六体の地蔵で、滑川丘の六地蔵に見られるように各々形象が異なっている。

●富士神社

江戸中期頃から富士山講が盛んになり、登れない人のために各地にミニ富士山がつくられた。祭神は木花開耶姫命。もとはゴルフ場内にあったが、開発で現在地に移され、祭も今はすたれて行われない。隣接地に山の神の祠がある。

●庵寺跡

かなり昔から、庵または庵寺といわれてきたところで、石碑・石仏に明和9年（1772年）の文字も見える。ここには大日如来、地蔵、観音の石碑石仏や、梵字を円形に刻み（曼荼羅という）、大日如来に救いを求めた光明真言塔がある。

昔は、盆踊りでにぎやかだった。

●滝作の溜

北川の上流にあり、農業用水として江戸時代頃つくられたという。上溜、下溜があり、一時、開発の土砂流入で埋もれてしまったが、浚渫工事で復元した。溜の北側斜面には、男石、女石、団子石、むじな石等の巨岩奇石が多く、東側道路斜面下には、月待信仰の二十三夜尊の石碑が見られる。

●男滝、女滝

北川上流にあり、男滝、女滝からなる二段の滝は、落差合せて約20メートルある。（滝への道路は、砕石工事のため現在は危険なのでいかない方がよい。）

●成田山東光院

真言宗智山派に属する寺院で、昭和15年高木修道和尚が、鹿島郡大野村より移して創建する。

境内には、弘法大師像や不動明王の石像が建立されている。

●滑川一里塚

一里塚とは、交通路の距離を示す土塚で、旅人の休息の場でもあった。滑川一里塚がこの地にあったといわれているが、滑川は10余の坂のある難所な道であったことを示す場所でもある。

●度志観音道標

建てられたのは約300年くらい前と推定され、度志観音へ十一丁、栄蔵小屋へ二十一丁と記されている。（一丁〈町〉は約109メートル）

●愛宕神社

滑川丘や滑川浜に愛宕神社が数社ある。火伏せ、防火の神であるほか、疫病等を防ぐとして信仰された神社である。

●仏ヶ浜と度志観音

仏ヶ浜は、「海辺の崖に観世音菩薩が彫られたので仏ヶ浜と名づけた」と常陸国風土記（奈良時代）に記された場所として、昭和36年、茨城県より文化財の指定を受けた。

度志観音堂は、弘法大師が建てたといわれる古い寺である。境内には、庚申信仰の本尊青面金剛や、人身象頭の二天が抱きあう雙身歓喜天等、多くの石仏石塔がある。

●大田尻横穴群

古墳時代の後期頃から、岩はだを利用した横穴の埋葬施設がつくられるようになった。はじめは一つの墓に一人を葬っていたが、後には、追葬もするようになり、複数の人骨も出土している。

●西行歌碑と栄蔵小屋

鵜の島温泉のある浜辺に西行法師の歌碑が建っている。

大田尻衣はなきか裸島
沖吹く風に身にはしまぬか

この歌は田尻浜の小島に小屋を建てて修行していた栄蔵という僧の貧しいくらしぶりを、裸島にたとえて歌ったものであるという。

●ソバナゴ

金木場の東端、急な崖地の海岸で、昔は馬捨て場であったらしく、地元の人達は噎馬捨所の字を当てていた。

浜では、昔、塩炊きが行われ、崖下には海水溜が残っている。また島には、日立の鳥「海鵜」の姿も見られる。（11月頃～5月頃）

●金木場遺跡

「図説 日立市史から」

発掘の調査結果、金木場、向畑遺跡から、縄文期より平安期にかけての多数の住居跡や土師器、須恵器等が出土した。特に、墨書土器や焼印等の文字を使った遺物の発見により、律令期の里長が住んでいた所と推察されている。

●津神社

祭神は大綿津見命という海の神で、滑川浜の鎮守様として漁業などの安全を祈願する神社である。

●百万遍供養塔

一般に念仏塔という。集落の人々が講をつくり、「ナムアミダブツ」を唱えて、全員の念仏が百万回に達したとき、記念として供養塔が建てられた。

昔は砂浜が広く、浜辺には崖をくり抜いた米蔵があり、ここから年貢米を水戸藩に船で納めた。

●清水聖観音堂

「耳だれ観音」ともいい、参拝すると耳の病気がよく治り、治ったら、お椀に穴をあけ、ひもを通して奉納するという。

創立ははっきりしないが、館跡のすぐ下にあり、関連あるものと思われる。

●滑川館跡

延徳年間（1489年～1492年）佐竹の有力な家臣、小野崎氏の一族、小野崎直通が小幡館に居住したとある。小幡館と滑川館が出てくるが両者は同一という説が強い。

直通はその後相賀館（会瀬）に移り、後には同族の小野崎左衛門が入ったが天正13年（1516年）、いわき軍進入の際敗れ去ったという。

●小幡阿弥陀堂

通称「イボ神様」といわれ、参拝すればイボが治り、お礼に大豆を奉納するという。

創建は不詳だが、室町中期頃ともいわれている。堂内には阿弥陀如来等を祭るほか、境内には十九夜講の如意輪観音等の石仏や八坂神社碑（スサノオノミコトや牛頭天王を祭る）等が並んでいる。

●四所明神

四所明神は、昔、小野崎氏などこの地域の4人の庄屋・有力者の氏神を祭ったものと伝えられている。四所明神の創建は明らかでないが、祠の中には、江戸時代の年号を記した木札が納められている。しかし、祭神は明らかでない。六所明神の大もとは四所明神という人もいるが、関係は不明である。

●海雲山観音院

天正3年（1575年）館主、小野崎氏の要請を受け、大雄院九世、吉山元利禅師により開基された曹洞宗の寺院である。

大正2年（1913年）凶悪強盗により、住職夫妻が殺害、放火されたので、寺を舞台の地から現在地へ移して、大正15年再建された。

本堂や観音堂に描かれている仏画、鐘楼に彫られている30余の龍の彫刻、境内には、不動明王、子育観音、説法地蔵などの石仏等、見学するところも多い。

●滑川浜古墳と三峰神社

観音院東側の小丘に滑川浜古墳がある。円墳とされているが、前方後円墳との説もある。その古墳の上に三峰神社の祠があり、160余軒からなる三峰講が今なお続いている。毎年代表二人が秩父三峰神社に参拝し、盗難、火難除けのお札を受け、各家に配るのである。